

ノイエスだより

ノイエス朝日
(朝日印刷工業株式会社)群馬県前橋市元総社町73-5
TEL 027-255-3434
FAX 027-255-3435
<https://www.neues-asahi.jp>Communication House
NEUES
ASAHI

高校生くらいまで、私は協奏曲の第二楽章を飛ばして聞くことがあったと思います。ゆったりとした間奏に耐えられず、なんでこんな暗い楽章を入れるのか？早くフィナーレを聞きたいと思ったりして、気の短い子だったのでしよう。映画もハリウッドのハッピーエンドばかり見て暗いものは受け入れられませんでした。日本語も英語も歌謡曲に関してはマイナーなメロディや歌詞が好みで少し大人ぶっていたところはあるものの、あたまでつかちだった生意気少女時代です。

その後逆転、協奏曲で言うところの第二楽章ばかり聴く時期がありました。本も映画も暗いものばかり。今思えばそれが私の青春だったのかと……反抗期の無かった私ですが、親元を離れて色々学ぶうちに多少は苦労も買えたのでしょう。その頃はヨーロッパに漂うアンニュイな気持ちに浸り、彼らのアンチアメリカな気分もわかる気がしました。好みが変わるといのは面白いものです。

先日、十人くらいの子どもたちを連れて(保育園小学生世代)美術館に行きました。入館前に真剣に鑑賞に関するレクチャーをしても、そんな事は知りつつも走ったり手が出てしまいそうになるのが子どもものサガ。ハラハラと見守っていたので私自身が作品を観ることは出来ませんでした。でもこの子どもたちが、大人とは違う感性で作品を見る表情や行動も、とつても素直で面白いものでした。なぜそこで凝視して動かなくなるのか、走りたくなるのか、触れたくなくなるのか、つまらなくなるのか……彼らの素直さをうらやましくも思いました。もしかしたら今回連れて行った子の中には美術館なんて嫌いと思う子もいたかもしれませんが、とにかく行かないことには好きも嫌いも始まりません。いつか訪れる閃きや成長のために良い経験になったことを願います。

今私は協奏曲で言うところの全楽章をゆっくり楽しめるような状態です。中年らしい成長をしてきたということでしょうか。年を取るというと身体が衰えなど後ろ向きなことをイメージしてしまいがちですが、きっと今まで見えなかったものや感じることも出来なかったことが、ストンと腑に落ちてわかっていくこともあるのでしょう。諸先輩方を見てもまだまだ私の感性は成長途中だと感じること多々。今後新たな扉を開ける時がくるのかと、時の流れに抗わず前向きに人生試行錯誤中です。(橋本)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

住谷夢幻展Ⅰ

〈企画〉

詩とイメージ ― 夢の蘇生 ―

会期 三月八日(土)～十六日(日)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

*

住谷夢幻展Ⅱ

〈企画〉

イメージの生成 ― 軌跡 ―

会期 三月二十二日(土)～三十日(日)

午前十時～午後五時(最終日は午後四時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

詩的観念(イメージ)は一般的にいつて図像をとまなうものといふことができると言われます。

詩は、日常表現と先進的言語を複合的に構成し、詩人の胸の奥底に閉じ込められたものを解放し、「ことば」によりイメージの世界を展開してみせてくれます。

詩人は、「出口なし」「愛の唇気楼」という二冊の詩集を二〇二三年に刊行。ひっそりと眠っていた詩を目覚めさせました。そして今年三月に「郷土望景 HIGASHIKOKUBU AKAGI」を出版します。

今回の展覧会は、イメージの世界を絵画という視覚的表現として数年かけて制作してきた作品を展示します。

「住谷夢幻展Ⅰ」では、詩人としての内面が色濃く見えるデリケートな部分と揺れ動く感情が表出している作品。

「住谷夢幻展Ⅱ」では、「ことば」に、さらに心の動きや情熱そして力強い生命観をストレートに表現できる墨などによる作品を展示します。

二回に分けての展示になりますが、是非ご高覧ください。

(M)

住谷夢幻〈詩集のご案内〉

詩集「郷土望景 HIGASHIKOKUBU AKAGI

定価二七〇〇円十税

一九三七年三月、現在の高崎市東国分町に生まれ、幼少期から多感な青年期を過ごした東国分。

当時、そこには豊かな自然と昔からの伝統的風習が存在してきた。いくつかの川が流れ、遠く赤城山の裾野が美しい姿を見せている。養蚕農家が多い地では、桑原十里と言われるほど桑畑が広がり、そして上州特有の強い風が吹いていた。戦争で家が燃えた悲劇もあった。

誰にでも郷愁というものがある。それは風景の一片であり、音であり、匂いであり、家族であり、そこに住んでいた人々であり、当時の自分の姿である。

詩人は、その後しばらく郷里を離れ都会で過ごす。数年後に戻った郷里には原風景が残っていた。そこで暮らし、体験し、経験したものは心の奥底にしまい込んでいた。そして仕事場としての赤城での散策のなかで生まれた詩やエスキースも入れた。

八十八歳になった今は、少し心を緩め再び「ことば」と向き合い「詩」と向き合い詩集にまとめた。

ニットソールディング真

第24回 春の作品展

会期 三月十八日(火)～二十日(木・祝)

午前十時～午後五時(最終日は午後三時終了)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

問い合わせ先

設楽治美

電話027・235・0302 (教室)

*ノイエス朝日(ギャラリー)は、展覧会会期中以外は休廊しています。お問合せにつきましては、会期中にお電話でお願いします。

027・255・3434